ほかにわ

発行所：ほかにわ共和国
発行責任者：志賀俊紀
編集責任者：ほかにわ広報部

福祉文化史の素朴な願い

理事長　志賀俊紀

ほかにわの語源はこの地方（島原半島）の農家の南側の外庭の事である。幼い頃、友人宅に遊びに行くと、おっかん（おかあさん）から“ほかんにわで遊べ”と言われたものです。そして春になると“おだいっさま（空海）”の祭りがあって、お参りして回るとお菓子などが貰えた。七十有余年前の事だ。農家の友人宅に行ったら“うちン〇〇バ頼むよ”と言って、沢山土産にいただいた記憶がある。母に“神社は無いと？”と訪ねると“神社にゃ無カト”と悲しい顔をした母を思い出す。昭和二十七年に八幡会は創立されたが、その源流をほかにわ共和国は継承している。父幸村翁とマサ子刀自は昭和五十年を前後に百日内で他界した。今年で五十年祭にあたる。

八幡会の新たな構想は、平成元年を初年度とする十五ヵ年を三次計画で達成することを目指し、そして翌年に、ほかにわ共和国は分離独立した。

その時強く感じたのが、知的障害施設八雲寮で実践してきた事を、福祉文化という概念で理論構築が可能かという疑問だった。長崎純心大学大学院で津曲裕次先生と邂逅できて、学術的の歴史的展開の術を与えていただいた。

爾来私は、ダウン症の歴史を文化的側面から研究しているが、ダウン症はある意味で、少数派に属する人達であることが中世期以後の研究で解ってきた。記念すべき二十年を、知的障害施設における福祉文化史研究の出発点にしたい。

玄関前のソメイヨシノを眺める八雲寮の利用者

ほかにわ共和国における社会資源

法人事務局長　志賀常盤

社会資源とは組織・団体・活動・情報・拠点・ネットワークが挙げられる。さらにフォーマルな資源とインフォーマルな資源に分割され法人は制度に基づいた福祉サービスの提供を行っている。それは障がい者と家族の思いを受け入れ、生活や活動を支援している環境にあるからだ。また、地域から求められる存在意義を常に問い続ける必要がある。地域に存在している以上、地域と繋がりを持つために参加や催しへの協力は全面的に取り組んでいるがその反面、地域を巻き込む方法として「ほかにわ運動会・ほかにわ神社祭」を行っている。

ところで昨年八月、地域への交流を主眼にした「ほかにわコンサート」を商工会館で開催したが、地域の方々の参加が予想を下回る結果となった。原因は何かを検証してみると「発信力不足」が原因であった。そこで発信力について考えてみた。最近伝播の手法としてＳＮＳが普及し活用されているのは周知のことであるが、情報発信力を高めていくことが最重要課題であると思われる。

中でもホームページは情報提供の入り口であり、効果的な運用を心掛けることで、社会に認知される情報が伝達できる。ただし、そのほかのＳＮＳ手法も合わせて取り組んで行きたいが、流布の危険性も同居している側面に注意をしたい。

今後、地域の各種団体や個人と共に、どうすれば地域に必要とされる社会資源になれるかを模索していきた。そして、地域にとって福祉施設を社会資源と認知して頂き、活用して欲しいと思っている一人です。しかも人口減少や高齢化など、地域力が低下しつつある現状を、職員と利用者と地域の人たちと協力して地域貢献できる仕組みづくりを考えていきたい。

令和六年度　人事異動

今年度も幹部職を含め、職員の人事異動が行われた。創立二〇周年を機に施設長の異動で八雲寮の顔である志賀俊紀は悠炉里へ、新寮長は志賀常盤と交代した。そして女性活躍推進法に基づき、女性職員二人の副主任への昇格が行われた。

ほかにわ共和国への思い

私は、平成17年３月、教職を定年退職したが、同年の11月、社会福祉法人「ほかにわ共和国」が設立され理事に就任した。本年度で理事として19年目を迎えた。長い付き合いとなった。

この間、施設・設備の拡大・充実等に取り組み、経営の安定や利用者のニーズに応えるべく努めてきた。昨今、福祉行政の変遷や利用者の高齢化等、事業継続への課題は多岐に渡る。そして、事業や経営が成功するかどうかは、その時の国の制度・方策、社会情勢に左右される面も多いにあるが、最終的には、その事業に携わる人々の智恵や工夫、そして、努力によって決まると思います。組織を作っている一人ひとりの意識や力量を高めることが必要です。そして、その意識や力量を組織として、結集することが大事だと思う。

利用者の福祉向上や地域からの更なる信頼獲得に向けて、全職員が一致団結して、誠心誠意、職務に取り組んでほしい。

設立２０年という節目の年を迎えようとする今こそ、職員一人ひとりが持ち味を発揮して、基本方針「共汗共育」、「地域共生」の実践に新たに努めてほしい。理事会も経営安定に向けて、全力で応えていきたい。

理事　近藤孝信

特集

新たな心で新年度スタート

ワークネットやはた　施設長　原田　秀範

辞令交付式の様子

辞令交付式が四月一日、惟神紀念館でコロナ禍の緩和で幹部異動者と新採用の参加で執り行われた。理事長より辞令を受ける職員は其々が新たな心で抱負を胸に刻み令和六年度のスタートラインに立った。

理事長の訓辞と近藤執行理事の激励があり、訓辞では、新年度の短冊の言葉「ほかにわないオンリーワンの融和と誠」に関する指南があった。さらに近藤理事からは、チームワークの重要性と変革に対する心構えへの激励の言葉があった。

障害者総合支援法における三年目途の見直しで令和六年度の障害福祉サービスの方向性が示された。もちろん、国連における障害者権利条約に追従する形で、利用者の意思決定支援を捉え、自己決定を尊重した支援の配慮が、その見直しの中核に位置付けされたものと認識している。そして国の施策は、障碍者本位のものであるべきで、支援の手法もまた同様であるべきだ。つまり、我々福祉従事者は、利用者ファースト主義を肝に銘じ、日々の業務を遂行することが求められている。

共同生活援助事業所の枠組み変更

本年度からグループホームの枠組みで、GH八雲寮（千代垣荘）が悠炉里の傘下に入ることを視野に入れた一体的活動に期待が持てます。

その第一は、自治会活動や野外活動等に職員の相互支援が可能になり、例えば、憧れのディズニー辺りまでの旅行も可能になるのです。それは、男子職員の支援が得られ様々な旅行上の不安が解消されるからです。（理事長　志賀）

ほかにわ共和国の動き

４月１日　辞令交付式

５月下旬　監事監査

６月上旬　理事会

６月中旬　評議員会

あなたと私のエピソード

身体障害を持つ利用者のAさん。Aさんが初めて八雲寮の短期入所を利用された際、私が見守り支援として一緒に過ごした時のことです。

八雲寮の宿直は初めての事で職員の方に教えてもらいながらAさんと過ごしました。食事、洗濯、入浴等を傍で支援しながらでしたが、Aさんは器用ですぐ覚えられ、初日を無事に過ごす事ができました。次の日、日中通っている事業所が休業日の為、日中一緒に日用品を買いに出掛けました。

帰宅途中にAさんが「海が綺麗だね」と話され、近くの海に寄り道することに。

時間も忘れて砂浜で貝殻探しに夢中になりました。不安や悩みがあったAさんが笑顔を取り戻してくれた事が、この仕事に就いて良かったと感じた瞬間でした。今でもAさんの部屋には貝殻を飾ってあるそうです。

そんなAさんとは同じ作業班で毎日共に作業を頑張っています。

ワークネット　やはた　副主任　林田まゆみ

MY ブーム・MY コレクション

「パパの趣味ってシール集めだよね。」先日、小学生の息子からポツリと言われた。「えっ、パパそんな趣味ないけど」と聞き返す。「半額シールだよ。いつも僕に見せて自慢するじゃん。まぁ、お刺身食えて嬉しいけどね。」これには参った。私の趣味はシール集めらしい。新聞の見出しに値上げラッシュ。

子どももデカくなりよく食う。

半額シールは神シール。今日もお仕事ガンバロー。

（悠炉里　田栗源吾）

売りたか。なう@

デイ雲では生産活動を行っており、商品は催事などで販売しています。町内、隣町などでの参加が多く顔見知りとなった出店者からは「今度はこんな商品作ってよ」等の話が持ち上がったりします。

季節に合わせた商品を置いておりますがオーダーメイドの商品も受け付けていますので、一度催事で見かけられた際にはお立ち寄りください。次回の出店はゴールデンウィークに口之津のフェリー乗り場で行われる『ポートバザール』の予定です。

（デイ雲作業班）

大空

障碍者支援施設
八雲寮広報部

心にのこる活動発表会

一年間の活動を締めくくる発表会が八雲寮の食堂で三月十七日に行われました。

コロナ禍の拡大により、毎年体育館で開催していた活動発表会は縮小され、利用者・職員のみの開催になっていましたが、今年に入り、コロナ禍の規制も緩和されて、久しぶりに、保護者と一緒に開催できたこと嬉しく思います。

発表会の中では、各クラブ活動で作り上げてきた作品の展示や一年間の活動をスライドショーにまとめ上映をしました。しかも上映中は、一緒に生活する仲間たちや家族との写真が流れると名前を呼んだりして、皆さんには好評のようでした。また、スライドショーを作成する際、活動を行う中での写真として記録に残す大切さを実感させられました。

発表会の最後には、食堂で集まり各家庭の家族写真を飾るためのフォトフレーム作りを協力しながら行ってもらいました。

フレームには、折り紙やシールで思い思いに装飾をしてもらい、素晴らしいものが出来上がりました。また、これから少しずつ形は変わっていくかもしれませんが、皆さんの思い出に残るような楽しい活動を取り入れていきたいと思います。

（副主任　山田かおり）

活動発表会の様子

今後の行事

５月
帰省（予定）

６月
収穫祭

大自然を満喫！

九州オルレウォーキングフェスティバル in 南島原に参加してきました。元々は韓国・済州の言葉で「通りから家に通じる狭い路地」という意味を持つオルレ。四季折々の美しい風景が広がり、トレッキングに最適な道を五感で感じながら南島原の魅力を再発見することができました。

今回参加者が百人を超える中、中継地点では福岡、佐賀、熊本の特産品や飲み物、地元の弁当が振る舞われました。おもてなしをして頂いたことで楽しいイベントとなりました。（吉田）

会長に選ばれたのは…

自治会役員選挙が３月２０日に行われました。今年は４名の方が立候補され、所信表明演説は八雲寮を楽しく暮らしやすくしたいとの熱い思いを訴えられ、応援演説は各立候補者の良い点をアピールし投票をお願いされていました。

投票の結果、自治会長：木下栄一さん、副会長：堀圭介さん、書記：松尾房徳さん、会計：宮﨑功さんに決まりました。１年間宜しくお願い致します。（福田）

木下栄一

堀圭介

宮﨑功

松尾房徳

桜だ！花見だ！お団子だ！

桜を見上げながら昼食を楽しもうと計画したが…生憎の雨。予定を変更して活動を行いました。

昼食を割烹料理屋に注文し、いつもと違った豪華なお弁当に「すごーい！」と、驚きの声が聞こえていました。そして、お弁当を食べた後は、ジョイフルへ出掛け、各自メニューを見ながら好きなものを注文しました。例えば、スイーツ・カレーを注文したり等様々でした。

今年一年間、利用者の方々には良い事もあった反面、苦労された事もあったようです。これからも休日の時間を利用して、日々の生活のストレスとなる事が緩和できるような活動を考えていきたいと思います。（中村）

造花の桜を持つ岡部さん

じゃがいも雑感！

新しく年度が変わり、新たな環境の変化に、誰しもが目の前にある不安やストレスと向き合っているのではないだろうか。

毎年のことではあるが、春先は落ち着かない雰囲気の中で自分自身も仕事のモチベーションを高揚する為に必死で考え、またそのために何をすべきかを自問して見るが、現実的には上手い方策は一度も出たことがない。

新たな人との仕事でのコミュニケーションにおいても自分を出しすぎず、かと言って自分を出さないわけでもなく相手との調和を保ちながら新たに受け入れる人達を牽引していくことは大切なことだなとだけ理解しつつある。

今年度はまた新たなメンバーも交えこれまでとは少し違ったチャレンジができることに期待しながら所期の目的が果たせるよう取り組んでいきたい。

（統括　白倉和裕）

がんばらんば宣言

今回ご紹介するのは・・・？

水野正輝さん

農芸班に所属している水野さん。これからも元気に頑張ります。

八雲寮（障害者支援施設　相談支援　短期入所　日中一時）〒859-2606　長崎県南島原市加津佐町甲5718番地
TEL0957(87)2347　FAX0957(87)2197

こゅうどうら

４月号 No.213

四年ぶりの大舞台
第十九回活動発表会

令和五年度年度の活動発表会は四年ぶりに観客を招いての開催となりました。一年を通して利用者の皆さんは練習に取り組み、観客が来るとわかると一層練習にも熱が入っていました。

当日は紀念舘に、創作活動の作品や作業活動での生産品もたくさんの展示を行い発表会を彩りました。各文化活動班はそれぞれの演目で活動の成果を十分に披露し、出演依頼を引き受けて下さった各団体の皆様にも会場を大いに盛り上げていただき、楽しい発表会となりました。

練習の成果を発揮できたオペレッタ「花咲かじいさん」

特に、最後の演目で全員で取り組んだオペレッタ「花咲かじいさん」。本来と違ったストーリーを職員で構成し、小道具等については利用者さんも制作に加わり、利用者・職員が力を合わせて劇を作り上げて練習に取り組みました。本番は、皆さん緊張するどころかのびのびとしており、期待以上の演技を披露されました。最後には観客からは笑い声が、演じている利用者さんからは笑顔がみられ、終幕には拍手が飛び交い大成功となりました。

今回の発表回は、他事業所からの来場者の他に、数名の保護者様にも見学に来ていただきました。

来年は二十回目と節目の発表会になりますので、多くの保護者様がご来場され、利用者の皆さんの一年間の頑張りとその場で見られる笑いや感動を間近で感じていただければと思います。

副主任　高松　豊

お疲れ様でした

３月２日、活動発表会のお疲れ様会を行いました。演奏やダンス、そして全員が出演したオペレッタの録画ビデオを観て、笑ったり、拍手したり、一緒に踊ったり！しました。上映後ロールケーキを食べながら、お互いを労いました。改めて参加する意義を感じてもらえる時間となりました。来年も頑張ります。　（熊本）

元気に遊んだ一日 ～児童外出～

３月９日に久々に児童外出を実施しました。午前中は西有家のみそ五郎公園へ行き、長～いすべり台を何往復もして楽しまれていました。ロープネットもあり子供たちは上手にネットの上を歩いたり、寝そべったりして大はしゃぎでした。風が冷たかったこともあり午後は、法人の多目的施設東望でゆっくりと食事をしました。午前中、体を動かした分、みなさんすごい食欲でペロリと食べてしまいました。その後はカラオケを歌いながら踊ったりして過ごしました。のびのびと過ごせた１日となりました。（光長）

春爛漫、桜の木の下で

３月の最終週、令和５年度最後の小グループ活動として花見に出かけました。今年は例年より桜の開花が遅く、近隣の花見スポットとされる場所でもまだつぼみの状態でしたが、南有馬町の某所で満開の菜の花畑と見頃となった桜の花を見ることができました。

３月末は雨天続きでしたが、この日は晴天にも恵まれ、桜の木の下で新年度にむけて新たな気持ちが生まれた一日となりました。（小山）

お立ち台

今回は、放課後デイサービスの児童を紹介します。

＊＊＊

昨年十一月より放課後等デイサービスを利用している森下夏実さん。

すぐにお友達もでき、利用日は楽しく過ごしています。小さい子の面倒見も良く、ピアノ演奏が上手。

夏実さん、これからみんなと一緒に楽しい思い出を作りましょう！

雲と虹

年度が替わり、また新たなスタートを切りました。

日々の業務を円滑に進めていく上で、「協力」することは非常に重要なことだと思います。何をするにしても一人で出来ることは少なく、職員同士でお互いにカバーしていくことが大切となります。相互にカバーをして業務を遂行するためには、職員一人ひとりのスキルアップが求められてきます。

そのためには前年度に出来なかった事を、今年度は一つでも習得しようとする向上心が必要です。利用者の方々に対して安心安全なサービス提供が出来るよう職員全員が仕事の質の向上を意識し、今年度も目標を持って業務にあたっていきたいと考えています。

統括　福田　亮

行事予定５・６月

- ホーム別活動
- 合同収穫祭
- 日帰り旅行

※状況により延期・中止になる場合があります。

生活介護　放課後等デイサービス　デイ雲　〒859-2606 長崎県南島原市加津佐町甲5718番地 TEL0957(87)2284 FAX0957(87)5277
お気軽にご相談下さい。

悠炉里

悠炉里への熱い思いの歩み

施設長　志賀俊紀

ほかにわ共和国の地域生活事業は、先代の幸村翁が知的障害者を地域で生活をすることを夢に描いた「ときわ荘」（昭和44年原型案）であるが、通勤寮八幡塾が開設できたのは昭和59年の事である。この間、故志賀司郎（ワークス理事長）の隣家と八雲寮職員宿舎と拙宅（幸村の自宅）を活用してからの始まりであった。その当時から自炊生活が基本にあった。通勤寮になってからもその生活様式は引き継がれた。八雲寮も通勤寮も初代施設長は母親であったので、生活の真意を熟知していたのである。

つまり「働くと食事」は生活推進の両輪であるという認識だ。悠炉里に異動してハイツの入所者が知的・精神・身体の三障害者が同じ屋根で暮らすという画期的な環境を22年前から実践しているがこのことは日本初の地域生活事業であると理解している。さて着任して、介護支援員・世話人と話す機会があり、その中で感じたことを書いて頂いたのが左の記事です。

私の考えは百八十度変わった

今から十五年前、知人の紹介でほかにわ共和国を知り入社しました。何もかも初めてで、私にはできるのだろうかと不安で一杯でした。ハイツの利用者の方々が不安な私を笑顔で迎えてくれました。私は、正直、知的障碍・精神障碍者の人たちは、何もできないので、私が頑張らなくてはと気負っていました。

ところが、ハイツではなく町中のグループホームの担当になったと同時に、私の考えは百八十度変わりました。女性三名のホームでしたが食事造りを楽しんだ思い出が今でもあります。しかし年月が経つにつれて、過去形で「昔はみんなで作ったね」という会話になってきました。それでも共に頑張ってゆきたいと念じています。

支援員　原川厚美

美味しかった焼肉パーティー

Aユニット活動を３月20日(水)に実施しました！

「天草」を予定していましたが、フェリーの都合で断念。雲仙の仁田峠へドライブに行き、仁田峠はとても寒く、雪がちらちら。バスの中から景色を楽しみました。

ハイツへ戻ってきて、お待ちかねの焼き肉！ホットプレートで目の前で焼き、お肉がジュージュー焼けているのを、まだかまだかと楽しみに待っていました。

思いもよらない寿司などもあり、おかわりする姿もみられました。お待ちかねのカラオケも行い、最後にアイスクリームも食べ、満足している様子でした。

令和５年度最後のユニット活動も良い思い出になったと思います。これからも利用者さんがワクワクする行事を計画したいです。支援員竹市香織

楽しかったグリーンランド見学

Bユニット活動は、３月20日に熊本へ行きました！！

天候不良でフェリー欠航となり、急きょ陸走での長旅でしたが、予定していた時間には着き、時間の許す限りアトラクションを楽しむ事が出来、そして皆さんの笑顔が多い活動となり、今後も体験型の活動を取り組んでいきたいです。　支援員　大平芳枝

自治会総会

自治会総会が三月十日希望の里で実施されました。

自治会長のあいさつから始まり、施設長のあいさつと進み、活動報告及び来期の新役員選出を目的に行われ、杜垣荘はズームを使ってリモートで参加されました。

プロジェクターで活動の様子をスライドショーで観ました。

次に来年度の新役員を希望される三名と一名は留任継続に決まり左記の通り役員が決定しました。

令和六年度自治会新役員

会　長　中村健治
副会長　大平裕也
書　記　小笹友幸
会　計　溝上　幸
支援員　綾部佐吉

こゆるりと

昨年度は新型コロナが五類移行に伴い、小グループ活動の日帰りが出来る距離で県外での活動幅を広げ実施する事が出来た。

やはり遠出の外出の可能性は利用者の方々には格別の楽しみの様子で、実施日の数日前から、毎日のように、引率職員を利用者が入れ替わり立ち替わり訪ねてきて、グループ分けなどに関心が高いことが分かりました。

準備の慌ただしさも有りましたが、利用者、職員間で笑いながら計画を立てる姿は改めて、福祉の仕事に対する魅力や、達成感を感じる事ができる時間でした。

今年度は旅行先での宿泊も視野に入れた小グループ活動の計画案も考えられており昨年度以上に福祉の仕事にやりがいが感じられる年度になるよう頑張ります。

主任　大場康生

我ち愛

障害福祉サービス
ワークネットやはた
広報誌　4月号

祝　人生の節目

二月十五日、当事業所の歳祝いが行われ今年は利用者三名、職員二名の方が古希、初老を迎えられました。

古希の白石光敏さん、寺田次男さんは紙加工班で箱折や素麺の加工、初老の松尾一則さんは被服班で資材管理の作業に取り組まれています。

昨年までは感染防止対策として各食堂で行事食にしていましたが、テーブルを離したり弁当形式にするなどして全員が同じ場所でお祝いし会食することができ、進行などを利用者の方に行ってもらったことでより全体で祝うことができました。

歳祝いを迎えられた五名の方おめでとうございます。（竹市）

惟神記念館にて全員でお祝い

感謝

２月21日、全国社会就労センター協議会の協力企業・団体・官公庁等、感謝受賞式が行われ当事業所推薦で小浜食糧株式会社様が雇用部門で受賞されました。代表取締役、金澤昌江様より「この度は、障碍者就労に対する取り組みに対しご推薦頂き、感謝の表彰を賜り誠にありがとうございます。

創業者から始まり今日に至るまで大変お世話になっております事、深く感謝申し上ます」とのお言葉を頂きました。

全国で１１団体の受賞

やはた共育大学校卒業式

やはた共育大学校の生活訓練二年、就労移行二年を経て卒業された森塚統さん。

作業では主に、紙加工班で箱折り、被服班ではボタン付けや製品運びに従事されており職員が声掛けするとすぐ行動に移され作業を頑張られました。

卒業生答辞では「八雲寮でも頑張ります」と大きな声で話されました。

やはた共育大学校でいろんな事を学び経験した四年間を忘れずに八雲寮での活躍を期待しております。

ご卒業おめでとうございます。（古賀）

四年間、お疲れ様でした。

新たな道へ

この度、山岡洋一さんが就労継続支援Ａ型事業所コミュニティほかにわへ就職が決まり新しい道へと進みます。

ワークでは、被服班に所属し主にアイロン作業を担当、リーダー的存在でした。

これからの御活躍を職員一同願ってます。（松本）

～NEW FACE～

下釜　輝彦さん

園芸班で、作業を頑張ります。よろしくお願いします。

宮本克吉さん

体に気を付けて、皆と仲良く頑張ります。よろしくお願いします。

春の陽気に包まれて

桜が咲く季節、今年も昼食を兼ねて権田公園に花見に出掛けてきました。

残念ながら満開ではありませんでしたが晴天の中で頂くお弁当はとても美味しく利用者の方も職員も笑顔で会話を楽しみました。

これからの作業への意気込みも一段と高まったように感じられました。今年度も頑張って行きましょう。（大村）

手作りお弁当に夢中

散歩道

副主任になり、一年が経ちました。がむしゃらに突き進み気づけばあっという間の一年だったように思います。

時には、落ち込んだりした事もありましたが職員の方々に協力して頂いたおかげで自分自身も学びながら乗り越えられたと思います。

感謝の気持ちを忘れず、今年度もさらなる向上を目指し業務に励みたいと思います。（林田　まゆみ）

ワークネットやはた（就労継続支援Ｂ型　就労移行支援　就労定着支援）〒859-2606　長崎県南島原市加津佐町甲5527番地2
TEL0957(87)5055　FAX0957(87)2200

これはこれから

家族と離れて地域で暮らす

デイ雲柿の木　所長　原口由紀子

卒業や入学と共に、学校や職場、住む場所が変わったりして、新しい環境での暮らしが始まるという方が沢山います。そういった変化に不安もあるけど、期待もあってなんとなく高揚感に包まれた雰囲気が春休みにはあるように感じます。

とりわけ、住む環境が大きく変わるひとり暮らしや、共同生活への転居は、家族と離れるという大きな試練を本人と家族の双方が乗り越えなければなりません。私は、障がいのある方が家族と離れてグループホーム等の地域生活を過ごすことが、絶対的な目的や自立の成功ということだと思いませんが、個々の可能性にチャレンジするとても良い機会と考えています。入居者をサポートする事業者として感じているのは、地域に深く理解されるのを求めるのは、ちょっと難しいという事です。それでも「あ～、この辺りに暮らしているのね」と、彼らの姿が地域の風景として溶け込めたら、最高だなあと思っています。

国の報酬単価等の見直しにより、ホームと「地域との連携」は、暮らす「家」を地域住民に見学する機会を設け、地域代表や行政担当、当事者と家族の会議をして、「閉鎖的」になりがちな運営の評価を要します。どこかの不祥事のツケに連帯責任を負わされているようです。家庭は、「閉鎖的」側面があるのに、ホームは開放し透明でなければならないのでしょうか。

更に、住民は善人で、福祉は悪人という認識に基いたこの方法に実効性があるのか、私は疑問と防犯の心配をしています。

皿洗い中の佐原さん　できることが増えてます

石川画伯作「桜」

おニューの作業着が出来ました!!

冬期の戸外での作業は厳しいもの。そこで、農作業を行うグリーン班では新たに作業着と帽子を買い揃えました。色味はちょっとミリタリー風(!?)新品の暖かなユニフォームで、作業へのモチベーションがあがるといいな。　（松永）

畑の中で、決まった★

自然と笑顔がこぼれます♪

ご卒業おめでとうございます！

白木大和さん

山口朋泰さん

増永心彩さん

陣川裕紀さん

今年も卒業を迎えた仲間たちがいました。

山口朋泰さんは小学校を、白木大和さん、増永心彩さんは中学校、陣川裕紀さんは高校を卒業され、四月からは新しい生活をスタートされています。

朋泰さんは卒業後、柿の木で初めて大人と一緒に畑作業に参加しました。大和さんも同じく作業参加し職員も感心する位、まじめに取り組まれています。心彩さんも慣れない作業に苦戦しながらも、さをり織りの作業で才能を開花させ、皆少しずつ次のステップへと成長しています。

高校を卒業した陣川さんは、同時に柿の木も卒業し、今では製麺所で立派に就職されています。初めて柿の木へ来たのは小学校六年生の時でした。心も身体も大きくなり、人前に立つのが苦手だった彼は、パンの販売に行くことが好きになり、汚れた物を触ることが嫌いだったけど、畑作業に文句も言わず行くようになりました。皆から愛されるいじられキャラで、自然と人が集まる人柄でした。

柿の木での経験がこれからの人生に役立つ事を願います。　（恵理）

介護福祉士 取ったどー!!

職場の皆（施設長!?）の熱い応援もあり、長い間尻込みしていた介護福祉士の試験にチャレンジしました。

直前まで試験勉強に手を付けずにいたため、せざるを得ない状況に自分を追い込み、なんとか試験当日を迎えました。

結果は無事合格。何を学ぶにも「遅すぎる」ということはなく、必要なのは学ぶ意欲と小さな一歩で十分なのだ、そう教わった経験となりました。ありがとう皆、ありがとう自分。そして、無事に合格した暁にはこう叫ぶのです。

「次は君の番だ!!」（園田）

言の葉

四月より国からの報酬改定があり、それに伴いまた事務処理が増えました。サービスの質を上げるためには仕方のないこと・・・と理解はしていますが、やはり事務処理が増える＝（イコール）机に座ることが増えることになります。その分、利用者の皆さんと関わる時間は減ってしまいます。

ここでよく愚痴っていますが、当事業所がある地域は過疎化が進み、働く世代の人材が充実しているとは決して言い難いものです。福祉の仕事というと、一昔前は人気の職種でしたが、本誌第66号で原口所長が述べたように、【介護士】は【二〇二二年、親が子供になってほしくない職業第五位】ですから、人材確保は至難の業。それでも制度の改正は待ってくれません。今いる職員で、どうにかするしかなく、サービスの質も維持、ないし向上していかねばなりません。

お願いです。制度を決めている皆さん。一度、地方の事業所へいらしてください。　（恵理）

5月の行事

1日　ホーム別活動※
6日　菖蒲湯
10日　ケーキの日
15日　河川アダプト
※印は参加費あり

デイ雲柿の木（生活訓練・生活介護・放課後等デイ）〒859-2204　長崎県南島原市有家町蒲河2273番地　TEL0957(76)8833　FAX0957(76)8844

福祉文化史で読み解く

日本断層の糸井川のジオパーク
一筆啓上火の用心の「丸岡城」を訪ねる

本年二月に伊豆大島の級友を訪ねたが、伊豆大島ジオパークで衝撃的感嘆の言葉が聞かれた。友人の一人(中川君)が断層を見て、「バームクーヘンだ」と叫んだ。各断層は世紀を示す地殻の歴史だ、見事で圧巻だった。日本のジオパークで有名なのは糸魚川、島原半島、伊豆大島など列挙出来るが、ジオと言えば最近では新しい学問である。しかも、地球の起源を辿る福祉文化史である。

ジオは地道な研究で思い出すのは高校の地学の先生のことである。遠い昔の受験に関わる逸話であるが、大学受験にはあまり馴染めなかった地学は、学科担任の変更になった。この由縁は畏友馬場伯明(学級委員長)と数名の仲間しか知らない話である。地学では逸材で専門家の〇〇先生には今でも慚愧の念に堪えない高校時代の秘話である。。

さて、先日NHKのドキュメンタリーでツタンカーメンの謎、ピラミッドの謎を、わが国の医療技術を駆使して大発見に繋げたニュースが世界を席巻した。考古学の地道な研究分野に、先端科学の導入は新たな視点の萌芽だ。わが国では卑弥呼の存在がロマンと謎に包まれた島原半島は、西洋文化の伝来が口之津港を軸に展開した。

一方、有馬晴信の切支丹との関りで直純は延岡へ、その後糸魚川に左遷されたが福井の丸岡藩に転封され明治まで繋がる。

今般、東京の津曲ゼミ出席に合わせて、糸魚川のジオパーク及び丸岡城を旅するが、現存する日本百の名城である丸岡城を、福祉文化史の視点で紐解いてみたい。

文責　**しがとしき**

伊豆大島ジオパーク記念写真(中川勝彦氏提供)

郷土の偉人
歴史に埋もれた結核医　末永敏事①

口之津歴史民俗資料館長　松本　昇

はじめに

森永玲氏の著書『反戦主義者なる事通告申上げます～反軍を唱えて消えた結核医・末永敏事』（2017）の冒頭は、次のような文章で始まる。

長崎県の島原半島・北有馬村今福（いまぶく）生まれの末永敏事(1887-1945)という医学者がいて、世界の難敵だった結核を研究する先端にいたが、公然と反軍を唱え、敗戦の頃死んだという。そのまま世に知られることなく、年月のかなたへ消えた。

1937(昭和12)年、日本は中国との戦争に突入した。いわゆる日中戦争である。これを受けて近衛文麿内閣は、同年、国民を戦争体制に従わせるために「国民精神総動員運動」を推進し、　翌38年には、人的・物的資源を統制するための「国家総動員法」を発令した。これに伴い、39年に「国民職業能力申告令」が出され、茨城県の結核療養施設、白十字会保養農園に医師として就職したばかりの敏事も、職業の申告を求められたのである。

何と驚いたことに、茨城県知事に出した回答書は、「拙者が反戦主義者なる事及び軍務を拒絶する旨通告申上げます」という内容であった。この書面を出してから２日後、敏事は特別高等警察（特高）に陸海軍刑法違反の疑いで検挙され、茨城地裁から禁固３カ月の刑を言い渡された。出所後、敏事の消息はわからなくなったが、何らかの理由で再び拘束され、代々木の東京陸軍刑務所に収監された。収監中、敏事は1945(昭和20)年５月の「山の手空襲」に遭い、死亡した。

敏事を国家への反体制的な行動に駆り立てたのは、果たして何だったのか。医学者としての地位を捨て、身命を賭してまでも、彼をこのような行動に衝き動かしたのは何だったのだろうか。これらの問いに答える意味でも、敏事なる人物を浮き彫りにしたい。

（つづく）

※このエッセイは、森永氏の本、並びに末永敏事平和祈念館（末永等館長）の資料に依拠している。

島原半島の道祖神(さやんかみ)信仰の地を訪ねて③
北有馬町浦口地区「佐代姫大明神」

郷土史研究者　飯田清親

北有馬に鎮座される「佐代姫神社」のお社に祀られる三体のご神体は、向かって右は観音様、中央の娘ようの坐像と左の杖(おうこ)で稲束を担ぐ少女の立像のうち、どの像が佐代姫神なのか「謎」である。

或る郷土史家は、左の立像の周りに沢山の陽根が奉納されていることから。また或る史家は、雲仙高岩山上の高岩神社に祀られる右手に鎌を持ち左に稲束を抱く女性像を示唆し、子宝祈願の神、並びに豊作祈願の神である佐代姫神に移行する前のお姿であるとしておられる。地域の方の話では、それは「稲の神」というよう言われるが、左手の立像を如何に解釈すればいいのかこれも「謎」である。

私はこのお像は、仏教系稲荷神である「荼枳尼天」(だきにてん註)ではないかと解釈している。お社の右手前にごく小さな祠があり、今ではお不動様が安置されているが、その前には狐の置き物が有り、この立像は元はここに祀られていたのではないか。

私が像を見て、火事に合い(立像の　頭部には黒く煤けた跡がある)神社の中に移され、その可愛いお姿からして陽根棒もその周りに奉納されるようになりこの立像が佐代姫神と祀られた」と考える。

北有馬町の佐代姫神は、原山名後谷地区、金比羅神社に向かう道沿いの高台にも、特徴のある大石を刳りぬいた半円形の祠があり、中に佐代姫神の石造りの可愛らしい坐像が安置されている。そして道沿いには「佐代姫塚」の看板、祠の前には「佐代姫大明神」の額がかかる赤い神明鳥居がある。

浦口部落と原山名後谷の神社どちらが先に建立されたのか、地域の方お二人にお訊ねしたが、その由来は「謎」であった。

註：インド・ヒンドゥ教の神、日本では稲荷信仰と習合し、白狐に乗る天女の姿。剣・宝珠・稲束・鎌等を持ち物とする。